

東北次世代がんプロ養成プラン セミナー実施報告書

(セミナー名称)	
東北大学大学院医学系研究科がん看護学分野主催 12月がん看護勉強会	
事例報告者 : 富澤 あゆみ	
所属 : 東北大学大学院がん看護学分野	
テーマ : MD Anderson Cancer Center における退院支援の実際	
担当者氏名 : 佐藤 富美子 教授	所属 : 東北大学大学院がん看護学分野
内線 : 7926	Email: fsato@med.tohoku.ac.jp
1. 実施年月日 :	
令和 元年 12月 23日	
2. 開催場所 :	
東北大学医学部保健学科D棟 217号室 がん看護学分野カンファレンス室	
3. 関連分野 :	
がん看護、チーム医療、外来看護、緩和ケア	
4. 対象者 :	
がん看護に興味関心のある医療関係者・大学教員・東北大学大学院医学系研究科保健学専攻学生・東北大学医学部保健学科学生	
5. 参加人数 : (お分かりの範囲で内訳をお知らせください。教員、学生など)	
大学教員 3名、大学院生 5名、看護師 2名 計 10名	
6. 成果 :	
<p>今回の視察報告は、10月に引き続き Japan Team Oncology Program:J-TOP のメンバーとして、5週間に渡る MD アンダーソン研修を受講したがん看護専門看護師による報告を元に、本邦における退院支援および Advanced Care Planing について課題を検討した。</p> <p>報告によると、退院支援は入院時から開始している。本邦と異なる点は 2点である。1点目は専門職が関わることである。専門職は Case manager, Discharge Nurse, Social worker であり、修士以上の学力をもつものが大半を占める。2点目は、患者の ACP がなされている点である。患者自身が今の自分の置かれている現状を理解し、ケースに応じた対応法を理解している。これは、退院支援において大切にしている点として①cancer treatment plans、②Patients wishes and family's wishes、③Availability of family members or other resources to help があること、さらに Social Work としての役割に ACP discussions がある点が、患者が ACP に参加できる要因として考えられる。</p> <p>以上の報告をもとに本邦の課題には、病院と在宅でのシームレスな連携が不足している点があげられた。在宅では、病院への敷居を感じていることが多いと報告された。連携実現のためには専門看護師が地域ケアにおける看護力の底上げを行うことや、地域と病院で連携したケースを事例検討する機会を増やすことなど、垣根を越えた地域包括ケアシステムの重要性を検討した。</p>	

【当日の会場の様子などの写真がございましたら、添付ください】

